



[土屋誠一写真](#)



[DSC00907](#)

石地蔵作家の土屋誠一さんの作品展にいった(陶芸家の鈴木青宵さんの陶芸と同時開催)。10月、浜松市の東区にある「折々ギャラリー」で開催された。

土屋さんは、昭和25年生まれの68歳。島田市金谷生まれ。

これまで作ってきた作品は、大小含めて5,000体ほどになる。30年前にサンドブラストというガラスを彫る創作を始める。さらなる好奇心で、あたらしい素材を求めていったら石に出会った。15年前から石に出会い、ふくろうや地蔵さんを彫り始める。

芸術作品というものは、なかなか世には見出されにくい。ゴッホにしてもゴーギャンにしても、死んだら有名になって作品が売れるという芸術家も多い。

死んだ後に有名になっても、もう自分はいない。生きてるうちに有名になったほうがいい。そう思っているけれど、最近はそのような気持ちはなくなってきた、と土屋さんは言う。

有名にならなくてもいい。いい作品を作っていきたいだけだ。自分がこの世を去っても、彫られた作品に、心が、魂が込められている。作品を通して、人にやすらぎを伝えられればうれしい。

これから、何をどうやって作っていききたいのか、聞いた。

時間と体力と資金が許せば、東北大震災の供養のためにお寺を回って、コツコツと石の地蔵を作りたい。ひとつ作品が完成したら、また次のお寺を紹介してもらい、そのお寺でまた石地蔵を彫る。そしてまた紹介してもらって、次の寺で石の地蔵を彫る。

全国、そんなふうにして石を彫っていきたい。地蔵の素材は、地元の石を使い、地蔵はそのままそこに置いてくる。そんな円空のような、木喰上人のような暮らしをしたい。

今日も朝から、寺の境内でコツコツと石を彫っている。いつしかぼくは、石ノミを手にしたまま、動かない。あたりは静寂だ。ぼくは動かない。音が聞こえない。止まっている。

近くの人が、声を掛ける。  
おーい土屋さん、どうかした？ しかし、返事がない。  
近づいてみると。あれ……。息をしていない。死んでいる。石を彫りながら往生していた。こんなふうにして、この世を去るのがいい。

土屋さんは明るく語った。

土屋誠一さんの連絡先：

誠一庵 島田市菊川661-1  
tel/fax 0547-45-0567 / 090-3447-5287

浜松北部 生きがい特派員 池谷 啓



[DSC00929](#)



[DSC00924](#)